



Fit your needs, Fit your future

期待に応えて、未来を形に……

株主通信

AUTUMN 2012

2013年3月期第1四半期決算報告

84号

SCREEN
NOW

SCREEN

株主の皆さまへ



平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2013年3月期第1四半期（2012年4月1日～6月30日）における事業環境は、半導体業界において、微細化に伴う設備投資は底堅く推移したものの、先行き不透明な経済状況や長引くパソコン需要の低迷等により半導体メーカーの設備投資に対する慎重な姿勢が続きました。このような状況の中、当社グループの売上高は467億円と前年同期に比べ177億円（27.6%）減少しました。利益面では、売上的大幅な減少により、営業損失は17億円（前年同期は62億円の営業利益）、経常損失は16億円（前年同期は60億円の経常利益）となりました。また、特別損失において保有株式の時価下落に伴う投資有価証券評価損を計上したことなどにより、四半期純損失は25億円（前年同期は47億円の四半期純利益）となりました。

2013年3月期の連結業績予想に関しましては、世界的な景気減速により半導体メーカーが設備投資抑制の動きを強めており、主に半導体機器事業の売上・利益が前回予想を下回ると見込まれることから、2012年5月8日に公表した予想数値を下方修正いたしました（別ページ参照）。なお、年間配当金につきましては、1株当たり5円の期末配当予想に変更はございません。

厳しい事業環境にある中、当社グループは、新たな成長に向けた研究開発の手綱は緩めませんが、海外調達拡大など変動費のさらなる削減や経費削減による損益分岐点の引き下げなど、安定した収益構造の確立に向けた取り組みを一層強化してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長 最高執行責任者（COO）

橋本 正博

SCREEN NOW 82号の彦根事業所に続き、今回は印刷関連機器の開発・製造拠点をご紹介します。

印刷関連機器の製造は、京都の久御山事業所、中国の美迪亜印刷設備(杭州)有限公司(以下MTMC)、英国のInca Digital Printers Ltd.(インカ・デジタル・プリンターズ、以下インカ社)の3拠点で行っています。久御山事業所は当社グループの印刷関連機器のマザー工場としての役割を担い、MTMCは新興国向け製品を低コストで量産、インカ社は英国・ケンブリッジの先進的なインクジェット技術を生かしてUVインクジェット印刷機*の中・高級機の開発・製造を行うなど、適材適所の生産体制を構築しています。また、3拠点で製造することにより、為替リスクの低減を図ることができる体制を整えています。

*UVインクジェット印刷機：紫外線で固まるインクを用いるデジタル印刷機

○久御山事業所

久御山事業所は、印刷関連機器のマーケティング、開発、生産技術、調達の中心として全製造拠点を統括するマザー工場です。マーケティング、開発、製造、サービス部門が集結し、各部門に必要な設備を有し、先進国向けに伸びているPOD装置のデモルームも備え、市場の変化に迅速に対応しています。さらに当事業所では、開発と製造が一体となって短期間で製品開発し量産出荷できる体制を構築しています。また、パーツセンターを併設し生産リードタイムの短縮を図っています。



<久御山事業所の概要>

所在地：京都府久世郡久御山町

敷地面積：12,286m²

事業所開設：1981年11月

就業人員数：469名(2012年7月1日現在)

生産品：CTP装置(先進国市場向け)、POD装置、フロント、ワークフローソフトなど



Truepress Jet520

○美迪亜印刷設備(杭州)有限公司

2011年9月に新工場を竣工。これによりMTMCの生産能力は約3倍に拡大しました。同社製CTP装置のほとんどが、CTP装置が急速に普及している中国やインドなどの新興国市場に出荷されています。現地調達を推進し、量産品を低コストで生産することにより新興国市場での販売拡大を図るとともに、久御山事業所と同じ教育プログラムで現地社員の育成を行い、日本品質に負けない品質管理を行っています。



<MTMCの概要>

所在地：中国・浙江省杭州市蕭山
経済技術開発区

就業人員数：174名
(2012年7月1日現在)

敷地面積：23,300m²

生産品：CTP装置

事業所開設：2004年9月

○Inca Digital Printers Ltd.

2005年6月に買収したインカ社では、屋外看板などを印刷する大判UVインクジェット印刷機の中・高級機を開発・製造しています。屋外広告などの需要が高い欧米が主要市場となっており、同社の「Onset」シリーズは、その高生産性・高印刷品質が評価され、2011年の出荷台数は50台以上と伸長しました。



<インカ社の概要>

所在地：英国・ケンブリッジ州

敷地面積：90,866ft²

就業人員数：193名

(2012年7月1日現在)

生産品：大判UVインクジェット印刷機



Onset S40

セグメント別業績(第1四半期:2012年4月1日~6月30日)

半導体機器事業

- 売上高 347億円(前年同期比28.0%減)
 - 営業損失 △6億円(前年同期は68億円の営業利益)
- ▶半導体メーカーの設備投資に対する慎重な姿勢が継続する中、半導体の微細化の進展により枚葉式洗浄装置の売上は底堅く推移したものの、バッチ式洗浄装置は大幅に減少しました。
- ▶利益面では、売上の大幅な減少や製品構成の変化による利益率の低下により、営業損失を計上しました。

今後の見通しと取り組み

- ・微細化投資は継続されるものの、半導体メーカーは総じて設備投資抑制の動きを強めるなど厳しい事業環境となる中、受注獲得を進めるとともに、海外調達拡大など変動費のさらなる削減や生産リードタイムの短縮に取り組み、収益の確保を図ってまいります。
- ・450ミリウエハー対応や微細化など先端分野の研究開発については、継続して推進してまいります。

FPD 機器事業

- 売上高 19億円(前年同期比62.7%減)
 - 営業損失 △3億円(前年同期は7億円の営業損失)
- ▶テレビ需要の低迷が続くパネルメーカーの設備投資が極めて低調であったことから、売上は大幅に減少しました。
- ▶利益面では、売上が大幅に減少したものの、エネルギー分野の開発部門を移管したことによる固定費の減少などにより、営業損失は前年同期に比べて縮小しました。

今後の見通しと取り組み

- ・厳しい事業環境が続く中、海外サポートに関わるコストなどの固定費の圧縮や海外調達や設計変更による変動費の削減を進めるとともに、有機EL向けノズルプリンティング装置の受注を目指してまいります。

メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業

- 売上高 99億円(前年同期比9.9%減)
 - 営業損失 △3億円(前年同期は2億円の営業利益)
- ▶印刷関連機器は、CTP装置の売上は前年同期並みで推移しましたが、POD装置が減少したことにより、前年同期に比べ売上が減少しました。
- ▶プリント基板関連機器は、主に光学式外観検査装置の売上が減少したことにより、前年同期に比べ売上が減少しました。
- ▶利益面では、売上の減少により営業損失を計上しました。

今後の見通しと取り組み

- ・印刷関連機器では、CTP装置は買い替え需要もあり引き続き堅調に推移するものと予想しております。POD装置は5月にドイツで開催されました業界最大の展示会「drupa 2012」の商談を確実に売上に結び付け、回復を目指します。
- ・プリント基板関連機器では、第1四半期に増加した受注残から第2四半期の売上増加を見込んでおります。

用語解説

枚葉式洗浄装置: ウエハーを1枚ずつ処理する洗浄装置。

バッチ式洗浄装置: 複数のウエハーを一括で処理する洗浄装置。

ノズルプリンティング: 微小ノズルから材料を吐出して基板に均一に塗布する当社独自の技術。マスクを必要とせず、材料を効率よく使用できる上、大型化にも対応しやすい。

CTP: Computer to Plateの略。印刷するデータをコンピューターから印刷用プレートに出力し、印刷版を作成する方法。

POD: Print on Demandの略。必要なときに必要な部数を印刷すること。

光学式外観検査装置: プリント基板の回路パターンを光学的に読み取り、元のパターンと比較して欠陥を自動的に検出する装置。

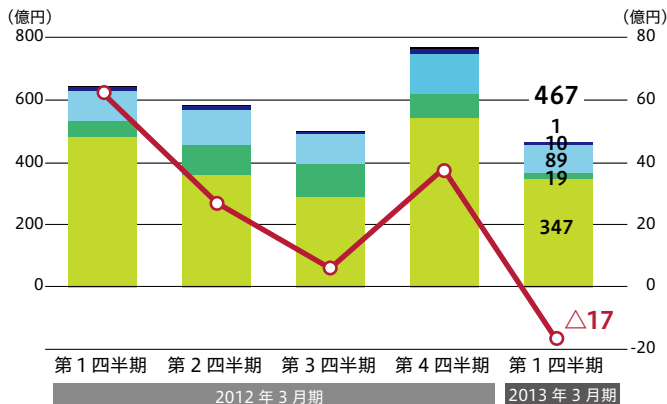
● 2013年3月期連結経営成績

(単位：億円未満切捨)

| | 第1四半期 2012年4月1日から 2012年6月30日まで | 前年同期 2011年4月1日から 2011年6月30日まで |
|--------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 売上高 | 467 | 645 |
| 営業損益 | △17 | 62 |
| 経常損益 | △16 | 60 |
| 四半期純損益 | △25 | 47 |

● 売上高・営業損益

■半導体機器事業 ■FPD機器事業 ■メディアアンドプレジジョンテクノロジー事業
 (■印刷関連機器 ■プリント基板関連機器 ■その他 ●営業損益[右目盛])



● 2013年3月期連結業績予想

(単位：億円)

| | 売上高 | 営業損益 | 経常損益 | 当期(四半期) 純損益 |
|---------------|-------|------|------|----------------|
| 第2四半期 (累計) | 970 | △18 | △21 | △34 |
| 通期 | 2,130 | 35 | 25 | 5 |

2013年3月期の期末配当につきましては、1株当たり5円を予定しております。

(注)財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表記しております。

サッカーJリーグ 京都サンガ「スクリーン スペシャルデー」開催 ～株主さまをご招待いたします～

当社は、2012年10月21日に京都西京極陸上競技場で行われる京都サンガの公式試合において、「スクリーン スペシャルデー」を開催し、株主さまをご招待いたします。

試合当日に本誌 (SCREEN NOW 84号) を競技場横のサンガフレンズスクエア内「大日本スクリーンブース」にてご提示いただければ、1冊につき5名さままでSバック自由席にて試合を無料でご観戦いただけます。たくさんの方のご来場をお待ちしております。



©2006 KYOTO.P.S.

対象試合：2012年10月21日(日) 13:00キックオフ
 Jリーグディビジョン2 第39節
 京都サンガF.C. VS. FC岐阜
 場所：京都市西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場
 (阪急電車京都線「西京極駅」下車 徒歩5分)

個人投資家さま向け会社説明会のお知らせ

当社は、以下のとおり会社説明会を開催いたします。ご参加を希望される方は、ウェブサイトからお申し込みください。

日時：2012年10月4日(木)
 開始13:30 (開場13:00)
 場所：大和証券(株)名古屋支店 3Fホール
 愛知県名古屋市中区錦3-15-30
 お申し込み先：<http://www.daiwa.jp/service/channel/brc/200el.html>
 お問い合わせ先：大和証券(株)名古屋支店 052-963-7111

大日本スクリーン製造株式会社

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目天神北町1-1 電話075(414)7111
 ホームページアドレス：www.screen.co.jp 証券コード7735

SCREEN NOW Vol.84 発行日：2012年9月10日(発行は3月、6月、9月、12月) 発行：IR室
 「SCREEN NOW」(株主通信)は、当社のフォント「ヒラギノ書体」を使用しております。



UD FONT 見やすいユニバーサルデザイン
 by HIRAGINO フォントを採用しています。